

## 會 長 就 任 の 辭

日下  
又、又、又

會 長 高 津 清

今回會員諸君の御推舉によりまして社團法人としての本學會最初の會長に就任することになりましたことは私として非常に光榮に存すると同時に責任の甚だ重大なるを感ずる次第で有ます。前會長米澤君は豊富なる學識と經驗とを以て本會の爲に非常なる努力を拂はれ豫て懸案であつた本會を社團法人にする事を解決され又本會基金の募集を企てられて本會の基礎を愈々鞏固にせられました。又通信工學ポケットブックを刊行されまして斯界の爲多大の貢獻を爲されまして本會の爲に着々實績を挙げられたのであります。又茲に改めて申上げる迄もなく歴代の會長は孰れも斯界の權威とせらるる方々でありまして本會の今日の盛況を呈するに至りましたのも誠に當然なることと首肯さるる次第であります。然るに私の如きは淺學菲才加ふるに電信電話の方面には何等經驗もない者でありまして果して此大任を果し得るや否やは大に懸念に堪へない所であります。併し乍ら一面から考へますに既に御騰立の出來て居る本會の爲に皆様と共に出來得る丈の努力を致すと云ふことは間接に我國電信電話界の爲に盡す所以であらうと心得御請けすることに致しました次第で此上共諸先輩の御指導と會員諸君の御援助とを切に御願する次第であります。

俸て此機會に於て少しく私の感想を述べさして頂きたいと存じます。近代に於ける各種工業の發展は極めて著しく就中電氣を應用する工業の進歩發達の顯著なることは實に驚くの外はないのであります。從て電氣の應用として最も古い歴史を有する電信電話は各國に於て殆んど遺憾なく普及し利用せられて居る次第で、之を本邦の統計に徴して見ましても電信線路里程は明治二年の八里から出發致しまして三十年代末には約 5,900 里大正元年度末には約 10,000 里十四年度末には約 13,000 里延長約 72,000 里に達して居ります。又電話加入者數は創業當時の明治二十三年末に於て 340 名位の者が、三十年代末には約 5,300、大正元年度末には約 180,000、十四年度末には約 500,000 と云ふ龍大なる數に上つて居ります。之等の數字から見ましても電信電話が如何に發達普及されつつあるかは明かなる事實であります。併し乍ら其の利用の程度に就て各國と比較する爲昨年十一月の本會雜誌に於て稻田工務局長が御示しになりました數字を拜借致しますと、電信の方は百人當一ケ年電報通數は日本 1.0、米國 1.7、英國 1.4、佛國 1.5、獨國 0.6、瑞西 0.8 と云ふ割合で日本の電信利用率は略ぼ歐米各國に接近

しつつあるのでありますが、電話の方面に於きましては百人當り一年間電話通話數 日本 29.9、米國 190.8、英國 22.5 佛國 20.3、獨國 30.1、瑞西 37.7 で米國に比して著しく劣つて居りますし、電話機の取付數から申しましても百人當電話機數 日本 0.9、米國 14.2、英佛獨瑞は 1.7 乃至 4.8 で日本が最も不振の状態となつて居ります。此點に就ては遞信當局に於て大に考慮せられて居る所で先年來電話大擴張の計畫を樹てられ着々其の普及利用の程度を増進せしめつつあるは誠に慶賀に堪へない次第で、願はくば遠からぬ將來に於て暴風雨雪等の際に於ても通信の不通を訴ふることなく、又電話の如きも申込があれば旬日を出でずして取付けられると云ふやうな状態になることを希望する次第であります。

上述の如く電信電話が普及しつつあると同時に一方技術上の進歩發達も亦著しいものがあるのでありまして、本邦に於ても着々最新式の方式並機械裝置を採用せらるるに至りました。即ち印刷電信機、音聲周波多重通信裝置の如き、電話の自働交換、長距離電話中繼裝置、電話用連續裝荷海底ケーブルの如き其の一例であります。然るに斯様な新方式並新式機械裝置が採用せられますことは技術の向上を意味し通信能率上頗る慶賀すべきことであると共に、一面に於ては我々は之に對する悲哀を感じねばならぬのであります。何となれば之等新方式又は新式裝置の採用に當つては先づ以て海外品の供給を仰がねばならぬのでありまして、一として本邦獨創のものがないのみならず、之等のものを本邦製品として得らるるに至る迄には相當の年月を要すると云ふ事情になつて居るからであります。少しく具體的の例を舉げて見ますと自働電話交換方式が震災後英斷を以て採用せらるるに至りましてから、之が本邦製品を得べく民間會社に於て努力せられて居るのでありますが、愈々本邦製品として完成する迄には未だ相當の時日を要するであらうと思ひます。此自働電話交換の如きは我國に於てこそ最新式であれ、歐米に於ては相當古くから用ひられて居るのであります。勿論勞銀其他の關係もあり日本に於て採用せらるるに至る時機を豫想することは甚だ困難な問題であつたに相違ないでしょう。然し乍ら斯様なものも豫め其の用意があつたならば其の結果は輸入防遏上著しい効果があることと考へるのであります。又邦字印刷電信機の採用に於ても日本では製作が出来ずに外國に注文を發せられたと聞いて居ります。斯様な精巧な機械は日本では製作が不可能であると云ふのでしょうか。或は又製作しても利益がないから作らぬと云ふのでしょうか。第一の理由であれば何時迄經つても日本は到底歐米に比肩し得ないものとして引下るの外はないのでありますが、第二の理由であれば我々は更に一考を要するのではないかと思ひます。要するに日本に於ける電信電話の現状は歐米の如くに普及せん

とし歐米の如くに技術の粹を集めつつあるのでありますが、未だ自給自足の域に達するに遠く、精巧なる機械装置は之を海外品に仰ぎ、本邦製品として供給せらるるものも海外品と同一程度に模倣することに汲々として夫以上に獨創的の改良が出來ぬ有様で甚だ遺憾と存する次第であります。此點に就ては今上陛下の朝見式に賜はつた勅語にも「模倣ヲ戒メ創造ヲ勗メ」と宣ふてあります通りで我々電信電話學會會員は此點に留意し一團となつて我國電信電話界の爲に發奮努力し以て昭和時代の先驅者たるべき理想に進むを要することと信ずるのであります。更に此點に就て少しく深く考慮致しまするに獨創的發明に就ては日本人が必ずしも其の能力に乏しいのではないことは幾多の事實が之を證明する所でありまして電信電話に關する本邦人の特許發明も可なり多數に上つて居る様で有ます。現に今迄相當良いものを發明しても之が實際に用ひられないで其儘となつて居る者も相當あるのではないかと思はれます。斯の如きは本會が率先して調査し電信電話に關する特許發明中苟も有用と認むるものがあるならば之を推薦して其の發明の改良完成に援助することは本會事業の一として行ふべきであると思ひます。次に製造に關する能力に就きましては日本は寧ろ其の優秀性を示してゐるかと思はれるのであります。此點は單に電信電話の方面のみならず、電氣一般の製造工業の發達に就て觀察致しますれば思半ばに過ぐる所でありまして、現に數年前迄は海外に供給を仰がなければ到底難かしからうと思はれた重信ケーブルの如きも當事者の努力研究の結果本邦品を完成し現今では海外品を凌駕する成績を得て居るのであります。要するに努力如何に依つて相當の成果を得ることは信じて疑はざる所であります。斯の如く獨創的發明の能力を有し、製作技術の優秀性を有する以上は我國電信電話用品の自給自足は時期の問題に過ぎないものと信ずる次第でありまして、此爲には目前の利益を多少犠牲にしても將來の計を樹つると云ふ覺悟が必要であらうと思ひます。差當りの問題と致しましても裝荷線輪、中繼装置、印刷電信機、海底電線、海底電話ケーブルの如き其他本邦製品として製作を始むべきものが多々あることと存じます。尙之等の品物を全く自給自足とする迄には各種材料の研究を要することは申す迄もありません。更に我々の考ふべきことは最近に於ける電信電話の技術上の異常なる發達は一に歐米諸國の一日も底止することなき研究の賜と申さねばなりません。我國に於ても政府、大學、並製造家等夫々研究に努めて居ることは誠に結構の至りでありまして今後は研究の成績大に見るべきものあるを信じて疑はないのであります。素より歐米の研究所の大規模に對し我國の小規模の研究を以て拮抗することは中々困難のことではありますが、少くも現狀から脱する爲には我々會員は更に一層努力研究して大に歐米諸國に對抗

するの覺悟を要することと思ひます。

次に無線電信電話界に就て瞥見致しますと有線方面とは稍々事情を異にして居るものがあるやうに思はれるのであります。即ち「マルコニー」氏が無線電信を發明致しましてから間もなく我國に於ても研究が開始せられて其の結果として我國無線界は殆んど歐米各國の研究と相平行して進んで参つたのであります。然るにかの眞空管の出現に際しまして我國に於ては立派な眞空管が中々得られる様に至らなかつた爲に無線其ものの研究も歐米に一籌を輸するに至り、其の結果一時は相當懸隔が生じて來た様に思はれます。此事實は又研究が如何に偉大なる効果を齎らすものであるかを物語るものと云はねばなりません。今や各國に於て全力を擧げて研究しつつあるは所謂短波長無線でありまして我國に於ても遞信、陸軍、海軍其他各方面に於て研究に没頭し無線通信界の革命を來さんとしつつあるのであります。現に英國に於ては本國と加奈陀間にビーム式短波長無線電信を開始し、又大西洋横斷の無線電話も實現せられんとして居ります。我國に於ても數局の短波長無線局が近く開局されんとし成績又極めて良好であると云ふことで斯界の爲誠に慶賀すべき次第であります。短波長の應用の如きは將來那邊まで發達すべきやは現在に於て豫想を許さぬ狀況でありまして益々研究の必要があることは申す迄もありません。尙新問題と致しましては新聞紙の報ずる所に依れば近く東京大阪間に寫眞電送の實施を見ると云ふことであります。之などは又電信界の一革命でありまして「セレニウムセル」を用ひた頃から現在の進歩改良の迹を尋ねますと如何に苦心研究の結果であるかを知ることが出來ます。最近の寫眞電送技術の發達は實に顯著で光電池の利用も益々巧妙になり「テレヴィジョン」の實現の如きも遠い將來でないかの様に感ぜられます。斯の如き新方面の研究に於きましては少くも本邦獨特のものを考案するに非れば我國は非常に不利の立場に立たねばならぬことと思ふのでありまして、此方面にも本會會員の努力發奮を希望する次第であります。

以上は私の感想の一端を述べたのでありますが、何等新しい事柄ではなく、色々の方々に依つて既に唱へられて居るものを反覆したに過ぎないのであります。只私は斯界の事情に就て充分なる理解を有たぬのに漫に妄評を敢てしたことに就て各位の御宥恕を乞ふと共に各位の努力に依り本會の存在をして大に意義あらしめたいと思のであります。どうか役員諸君並に會員諸君に於かれまして私の意のある所を御諒承下さいまして充分なる御指導と御援助とを賜はらんことを希ふ次第であります。又御氣付の點は御遠慮なく御進言下さらんことを希ひます。一言就任の御挨拶として纏まらぬことを申上げ御清聽を煩はしたことを深く感謝致します。